

## 第7回高知県社会教育委員会会議概要

令和7年1月17日（金）10:00～12:00

高知県立塩見記念青少年プラザ 3F会議室

出席委員（斉藤雅洋、川上確也、久寿久美子、  
佐竹真紀、徳増千里、吉田友一、  
眞鍋大輔、森岡千晴、岩井拓史）

### 1 開会（10:00～10:05）

#### 【委員長挨拶】

高知県社会教育委員会も第7回ということで、いよいよ大詰めを迎えることとなった。会自体は全8回なので残すところ2回だが、提言案に関して議論・協議をするのは、今回は最後の仕上げ、確認作業となるので今日が実質最後になるかと思う。言い残しがないように、全部出していただけたらと思う。

### 2 議事（10:05～11:55）

#### （1）令和7年度高知県社会教育関係団体への補助金について

##### 【事務局から説明】

（委員）

- ここに記載のある団体以外への補助金というのではないのか。

（事務局）

- 申請等が出ていないので交付はない。なお、予算措置をする為には事前に協議がないとできず、申請があれば交付できるという訳ではない。もし要望等があれば協議しながら予算化できるかどうかを含めて検討していくということになるかと思う。

（委員）

- 補助金が高額すぎると思われる団体もあるのではないか。

（事務局）

- 段階的に減額をしているものであり、今後については機会を見ながら検討する余地もあるかと思っている。

（委員長）

- その他、社会教育関係団体の補助金に関わって質疑はないか。  
なければ、社会教育関係団体の補助金について承認ということよろしいか。

↓

承認

#### （2）提言案：これからの社会教育と若者世代について

##### 第1章について

（委員長）

- 8月に1度検討してきており、その頃と比べると質量ともに充実してきたと思う。
- 進め方としては、各章ごとに意見や質問を伺う形で進めていくので、その都度お気づきの点、質問などあれば出していただきたい。
- では、第1章について意見や質問があればお願いします。

（委員）

- 第1章について、書いてある内容は分かるが、とりとめのない感じになっている。問題がいろいろあるというのは分かるが、それらがどのように相互関連していて、どのように社会教育や

若者世代をめぐる課題につながっているのかというのが見えにくい。

- ・そこで、書いてある内容をまとめ直して、相互の関連性が見えやすい形にまとめたほうがいいのではないか、この章のこの部分は何について述べているのかが見えやすい形にしたほうがいいのではないかと思い、第1章の部分を書き直してきた。

(事務局)

- ・書いてある内容がネガティブに書かれている部分があり、気になる。

(委員長)

- ・第1章に関しては委員が書き直してきた内容を参考にし、根本的に再構成していく。
- ・その上で、細かい部分も含めて意見をいただけたらと思う。

(委員)

- ・パッと見た時に、学校教育のウェイトがすごく高いと感じる。

(委員)

- ・いつも現状が厳しい状況となっている。「若者が地域社会とつながり交流することは難しい状況にある。」と書かれているが、高知県なりの可能性というか頑張っている現状もある。
- ・自分たちのことになって申し訳ないが、青年団が一般社団法人を立ち上げ、移住してきた方と地域とのつなぎ役を、行政と連携してサポート事業をとって行う活動があり、これは全国的に見ても新しい社会教育関係団体の可能性を少しだけ見出したのではないかと感じている。
- ・「課題となっています。」の後に、「しかしながら、この高知県のある意味狭さを生かしたコミュニティや人とのつながりの深さから、社会教育があるからこそ新しい可能性も見い出しているという現状もあります。」というような何か1つでも高知県なりの可能性を感じる部分を入れると、次につながっていくというふうと思う。

(委員)

- ・第1章を見ると、メッセージ性が乏しいという点は指摘できる点かと思う。
- ・単に社会教育の実践上の広がりを作るだけではなく、固有の教育の範囲に留まらないという社会教育の概念的な広がりというところも、2年間の議論の中では挙げられている部分があるので、未来に向けたメッセージ性というところがあると、新たな展開というのが想起できて、第2章の取組につながっていくと感じる。

(委員)

- ・第1章の最後に、委員がおっしゃったメッセージ性や未来を感じるような文言を入れたらどうか。

(委員)

- ・最初に、外向けなのか内向けなのかというところ。提言書なので、内向けであり外向けでありということが内包されているとは思いますが、色んな課題が出てきてどうするのかというところは悩ましい。

(委員長)

- ・提言書は内向けであり外向けでありという両方の側面がある。内向けという点では高知県教育長への提言ということになり、外向けという点では県内の学校や社会教育に携わっている方々へのメッセージということになるので難しいところではある。
- ・委員が言われたように、第1章はネガティブな点に焦点化しすぎている部分があるかもしれないので、ネガティブな面もあれば、新しい可能性も芽生えつつあるのではないかというように、ネガティブ、ポジティブ両方の側面から見直していけば、第2章へのつながりも善くなると思われる。

(委員)

- ・子どもたちの社会性の不足について、個人的には子どもたちの社会性は実は上がってきている

のではないかと思っている。

- ・情報の平等性というか、どこにいても入ってくる情報の量が昔よりもはるかに増えており、その影響で実は子どもたちが持てる社会性のようなものは、逆に進展している部分というのものではないか。
- ・ポジティブ、ネガティブの両方を書いていくのであれば、課題だけをあげるのではなく、新しい可能性を感じるような点というのも書けるのではないかと思う。第1章の最後に、高知県の新しい可能性を感じるような点を一段落分付け加えて、「課題がありつつもこういう新しい可能性が感じられるからこそ、社会教育委員会でこういう検討をしていきます。」という形で第1章を終えるというのもいいのではないか。

(委員長)

- ・第1章に関わって気になっている部分だが、第1章のタイトルについて、この委員会の中では、若者世代、若者を15歳から39歳とすると定義づけているが、第1章の内容を見ると、若者世代というよりは、子どもについての内容である。
- ・この委員会の中では、将来若者世代になる子どもにかなりフォーカスをあてて協議してきたこともあり、例えばタイトルを「若者の育つ環境」というような文言でくくってはどうかと考えたがいかがか。

(委員)

- ・いいと思う。幼児期からずっと若者がどう育っていくのか、最終的にその若者の育成というところが大事なので、若者の育つ環境とするのはいいと思う。

(委員長)

- ・こじつけかもしれないが、第1章は若者世代の過去、第2章は若者世代の現状・現在、第3章は若者世代の未来というような整理もできるのではないか。

## 第2章について

(委員長)

- ・それでは、第2章に移りたい。第2章に関わって提案やお気づきの点があればお出しいただきたい。

(委員)

- ・第2章は、それぞれの委員の発表をまとめた形になっているかと思う。それぞれの委員に思いや主張したいことがあると思うので、それぞれに修正してもらい、事務局へ提出する形にしたほうが間違いがないのではないか。

(委員)

- ・先ほど、第1章のタイトルを変えるという形にしたが、そこの整合性が必要。第1章のタイトルを変えたならば、第2章もそれに連なってこないといけない。

(委員)

- ・冒頭の3つの観点について、実際の委員の発表を聞く中で、この観点自体が合っていないような気がする。このくくりでまとめるのではなく、もう1度それぞれの委員の発表内容に基づいてシャッフルするというか、観点を出し直し、それぞれの観点にどの発表がくるのかを見直したほうがいいと思う。

(委員)

- ・どこに力点を置くかだと思う。高知県の社会教育委員全体としてまとめて強力なものを打ち出すのか。それとも、今のように、各委員の事例報告・ケースレポートと研究対象のような形でいくのか。それぞれの事例があると、多様性があったり自由があったりという社会教育の広い開かれた社会というところは想起できると思う。

(委員長)

- ・実は去年の6月7月頃に、事務局と私とで、各委員からの発表内容を分解して、3つの観点で組み直すということに取り組んだが、うまくまとまらないというか、この3つの観点にあてはまらない内容が多くあった。
- ・どうすれば各委員からの発表を最大限に生かせる形で提言に位置付けることができるかを考え、この3つの観点は少々無視するような形になったが、ケース報告・事例報告のような並べ方をした次第である。

(委員)

- ・このケース報告は、そのままのほうが社会教育に興味を持っている方からしたら、どういうことをしているのかというのがそのまま伝わるので読み応えがあると思う。
- ・3つの観点自体の文言を調整して、それぞれの観点の下にどのケース報告がくるかという分類でいいのではないか。

(委員)

- ・話の一貫性を考えると、各委員の発表内容をばらすと話の筋が違ってきてしまう。ばらさないほうが一貫性が崩れないのでいい。
- ・観点からと言ったが、いろいろな広がりを持って発表がされていたので、それに見合うように最初のリード文をつけてはどうか。

(委員)

- ・他者とか他の地域の経験を共有するという事があればいいと思うので、あくまで事例報告として残しておいて、全く職種が違う委員の共通項は何なのかという道筋の部分が第3章につながってほしいかと思う。

(委員)

- ・第1章の現状・課題と第2章の各委員からの提言の部分が一致しないところがあるので、もやもやするところがある。
- ・課題を解決する部分と、現状で問題になっていることのリンクをしていかないと、どういうふうにつながっていくのかというのが分からないので、その辺りを修正したほうがいいのではないか。

(委員長)

- ・第2章に関して、ここまでの話を整理すると、まずは各委員が発表された内容の部分を丁寧に見直してもらい、細かい点について事務局に連絡していただく。次に第2章の構成について、当初の協議を行ったときの「協議の柱」に沿って構成を変更する。それにあわせて、各委員の発表の位置づけを変更する。次に第1章と第2章の現状と課題の整合性がまだ取れていない部分があるのではないかという指摘があったので、第1章と第2章のつながりを調整するということが必要。

(委員)

- ・先ほど委員がおっしゃったようなメッセージ性や未来を感じるような文言を第1章の最後に入れて、そこで実際高知県ではこういうことが展開されてきているということに少し触れておけば、第2章につながってくるかと思う。
- ・柱については、当初の協議の柱に沿って並べ替えをすると、各委員の発表と柱がずれている場合が出てくる可能性があると思う。
- ・当初の3つの柱にこだわる必要はない気がする。もちろんこの柱が課題として我々に与えられて、それに対して各委員が発表をしたが、実際発表していく中で、柱からずれた部分自分も含めて大いにあると思う。逆に各委員の発表から柱を見い出して、その柱の下に各委員の発表を位置付けていけば、ずれがなくいいのではないか。

- ・第2章が提言となっているのがずれているのではないかと。第1章の課題を受けての第2章は、高知県での実際の取組や事例で、第3章が提言ではないかという気がするが違うだろうか。

(委員)

- ・もやっとしているのは、恐らくそれが原因だと思う。第1章で現状をあげる。第2章で各分野からの素材を出す。第3章で提言するという流れだと思うので、今おっしゃったとおりでいいと思う。

(委員長)

- ・委員がおっしゃるように3つの柱がどうもうまく整理がつかず、柱の見出しを変えて各委員の発表を並べ替えたのが今の状態ということになる。

(委員)

- ・ここはもうシンプルに、第2章はケースレポートということで挙げていき、それをまとめたものが第3章で提言というのはいかがでしょうか。

(委員長)

- ・それでは第2章に関しては、繰り返しになるが各委員で文言等をチェックし事務局に提出する。第2章の構成に関しては、見出し等はひとまず現状のままにしたいと思う。各委員の発表の位置付けを別の見出しに移動してほしい等の判断はご自身にまかせることにする。

### 第3章について

(委員長)

- ・続いて、第3章に移りたい。第3章は、第2章を受けて各委員個人ではなく委員会全体としてのままに提言のパートとなる。お気づきの点があればお出しいただきたい。

(委員)

- ・具体的な施策の(4)読書活動の推進というのは、こういう細かいところなのか。

(委員)

- ・読書活動の推進では、地域学校協働活動でどうこうと書かれてあるが、どちらかというとビブリオバトルのような新しいもの。子どもたちが参加して、将来的に5年後、参加した子どもたちが今度はスタッフ側で関わるというつながりが生まれるようなことも期待できる。

(委員長)

- ・第3章だが、今、「具体的な施策の推進に向けて」の部分についての意見をいただいた。読書のところは文言を変える必要があるのではないかとのご意見だと思うが、全部で7つほど読書以外にもあるが、他にもご意見があればお出しいただきたい。

(委員)

- ・(5)の海外との交流機会というのは、もっと具体的に提言していただきたい。不登校になる子は狭い世界で生きていて自己肯定感もないというところがある。多様化と言われているが、高知にいととなかなか感じられないところもある。文化も違う、考え方も違う、人種も違うという方たちとの交流というのはすごく大事だと思う。
- ・高知にはそういう気質はあると思うので、早い段階から海外との交流に触れると、おそらく自分自身でいいんだ、人と違っていいんだということが分かってくると思うので、カルチャーショックを受けながら、外に出て行くのがいいのではないかと思います。

(委員)

- ・何十年か前は、青年の翼というのがあった。1か月くらい船とか飛行機で海外に行って、そこで出会って結婚した人もいたらしい。そういう機会やきっかけをそんな長期間ではなくていいので、若い人たちが集まる機会や海外に行く機会というものは付け加えることができるのではないかと。

- ・今、前段に取組の方向性が4つ出ており、後段が具体的な施策となっているが、この前段と後段の関連性がほしいと感じる。
- ・学校現場への予算について、私の住む市では、子どもたちにカツオの薫焼きタタキを体験させてあげたいということで、学校が外部の団体に依頼をしているが、学校に予算がなく体験活動の実施に向けては外部の団体にしわ寄せがいつている。こういうところへの支援はできないのか。

(委員)

- ・それはキャリア教育の方ではできないのか。やはり、教育の場を地域全体で支えるというふうに提言するのであれば、キャリア教育をもっとやるべきだと思う。

(委員長)

- ・そろそろまとめに入らないといけな時間になってきたが、どうしてもこの点はこの点があればお出しいただきたい。

(委員)

- ・今、高齢化県で、一番一緒になって社会参画したいというのは高齢者だと思う。若者を指導したり、若者へ伝えていく存在でもある。お年寄りとの交流については、誰も話していなかっただろうか。

(委員長)

- ・今回、若者世代というテーマだったので、私の記憶の限りでは、どの委員からもその観点についての話はなかったように思う。

(事務局)

- ・高齢者という限定的な言い方はしていないが、歴史や地域を学ぶというところでは当然地域の方のお力を借りる必要があるというふうに考えて整理をしたところである。その意味で経験のある方という言い方等、一定は踏まえた形にはしている。

(委員)

- ・第3章の全体的なことだが、見出しの表現の書きぶりというか、ニュアンスをどこまで見直すかというところで、あまり理念めいたものにならないようにしないといけない。なぜかと言うと、よく見てみると今まで取り組んできたことがかなり多い。例えば、具体的な施策の推進に向けて(4)読書活動の推進も、県としては20年この理念をうたっていて取り組んでいる。
- ・この提言書を手にとった方に「そりゃそうだよね。当たり前のことだよ」とした印象を与えると、提言を読んでももらえない可能性が出てくる。見出しの表現を具体的にどこまで詰めるかというか、見直しが必要だと思う。
- ・以前委員が言っていた、地域のおんちゃんおばちゃんに優しくしてもらったから、自分たちもそういう世代になったら恩返ししていこうという循環が大事で、取組の方向性(2)教育の場を地域全体で支えるの文章にそのニュアンスがあってもいいと思う。とにかく地域の大人の背中を見せるというニュアンスが欲しい。

(委員長)

- ・それでは、第3章に関していろいろな意見をいただいたが、ポイントとなるのは、1つは取組の方向性の部分については3つにまとめる。(4)の次世代につなぐ資質の醸成は削除ということだろうか。

(委員)

- ・ここの柱の数は3つなのか4つなのかは要検討だと思うが、この方向性と次の具体的な施策のところの紐付けをきちんとしないと、何の話か分からなくなってしまうので、そこの紐付けが必要という話だったと思う。
- ・それに対しての提案だが、最後に1つ図を入れたらいいと思う。チャート図みたいな感じで方

向性の（１）の下にはこの施策が紐付いて、（２）の下にはこの施策が紐付いているというのが分かる図を入れたらいいのではないかと。

（委員）

- ・前回の提言ではポンチ絵があり分かりやすくなっていた。このままだと方向性と施策のどれとどれが対応しているか分からないので、ポンチ絵を作ったらいいかもしれない。

（委員長）

- ・では、この取組の方向性と具体的な施策の関係が分かるポンチ絵、チャート図を入れるというところだろうか。
- ・それから、委員が言われたように、すべての見出しの表現もう一度見直す。確かにその通りだと思う。
- ・あともう１点。具体的な施策の部分にキャリア教育の話を加えたほうがいいのではないかとという意見が出たかと思う。
- ・ここまでが提言案の第１章から第３章までの協議となるが、最後に、次第にはないが、第８回の会議をどうするかだが、第３章に関してはもう少しこうして集まって協議をした方がいいと思われる。第８回は今回のような会議でよいか。

（委員長）

- ・次回はおそらく３月になると思うが、日程調整をした上で案内があると思う。
- ・第１章に関しては、委員と事務局とで最終の調整をする。第２章に関しては、各委員と事務局で調整をする。期限としては１月３１日までをお願いします。各委員の修正後の枚数制限等はどうか。

（事務局）

- ・枚数制限はない。

（委員長）

- ・第２章の各委員の修正は、全体のバランスを考えながら常識の範囲内をお願いしたい。
- ・以上で協議は終了させていただく。

### 3 閉会（11:55～12:00）

【生涯学習課長挨拶】